

利益相反状態の開示

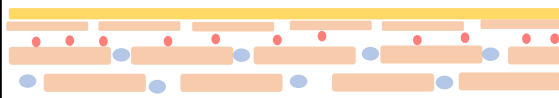
今回の講演については
開示すべき利益相反関係にある
企業等はありません



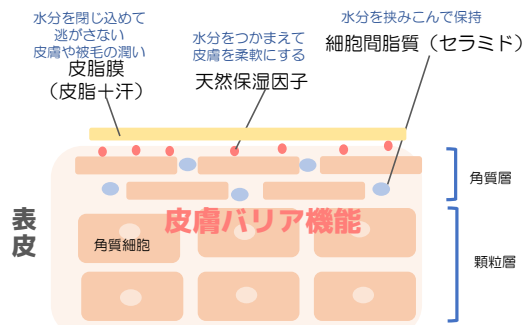
シャンプー・保湿で重要なことは

皮膚のバリア機能を意識したスキンケア

- 1、皮膚の状態に配慮したシャンプー剤の選択
- 2、皮膚バリアを意識した洗浄や保湿ができているか



スキンケアに必要な皮膚の知識



製剤の特徴を知るには
『成分表記』を解説

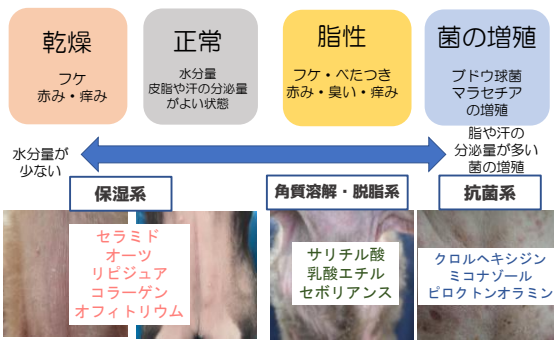
シャンプーの組成



皮膚や被毛に有益な特性を
与える成分
保護成分や仕上がりを決める

シャンプーのとろみをつけたり
PHの調整をし
製品の安定性を高める

皮膚の状態に配慮した「成分」の選択



セラミド



『成分表記』

セラミド
コレステロール
必須脂肪酸
アルキルポリグルコシド
ピロクトンオラミン



脂性

フケ・べたつき
赤み・臭い・痒み





『成分表記』

サリチル酸ナトリウム
 グルコン酸亜鉛
 ビタミンB6
 必須脂肪酸
 単糖類
 アルキルポリグルコシド
 ヒロクトンオラミン

抗菌系シャンプー

菌の増殖
 ブドウ球菌
 マラセチアの増殖

2% クロルヘキシジン
 2%クロルヘキシジン
 2%ミコナゾール

ヒロクトン
 オラミン







ノルバサンサージ スクラブ マラセブ マラセキュア メディターム

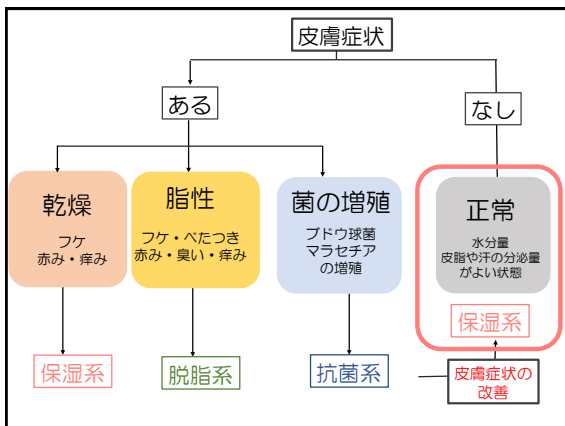
膿皮症の場合

皮膚や毛包内に
 ブドウ球菌の増殖によって
 引き起こされる皮膚炎




湿疹 表皮小環

過去に膿皮症と診断されました
 ずっと同じ抗菌シャンプーを
 使っていて良いのでしょうか？

膿皮症の発症には アレルギー性皮膚炎が関与！？

48%



Point 犬アトピー性皮膚炎では
常在細菌叢（マイクロバイオーム）
の多様性が減少

ブドウ球菌が優位

→常在細菌叢のバランスを整えることが大切

Virbac
A
アデルミル
ADERMYL
Shampoo

アトピー性皮膚炎の子犬
皮膚バリア機能を回復させるために
開発されたアデルミルシャンプーは、
皮膚の常在細菌叢を回復させ、
皮膚のバリア機能を回復させます。

PEPTIDE
TECHNOLOGY

ペプチドテクノロジー

セイヨウナツユキソウ

ポルド葉

耐性菌の問題

近年、抗菌剤が効かない膿皮症の症例が多くなった

メチシリン耐性遺伝子陽性率（＝抗菌薬への耐性傾向）

66.5%

→なるべく抗菌薬の使用を避けるため
に**スキンケア**を上手に利用

二次診療施設における2007-2009年に犬膿皮症症例

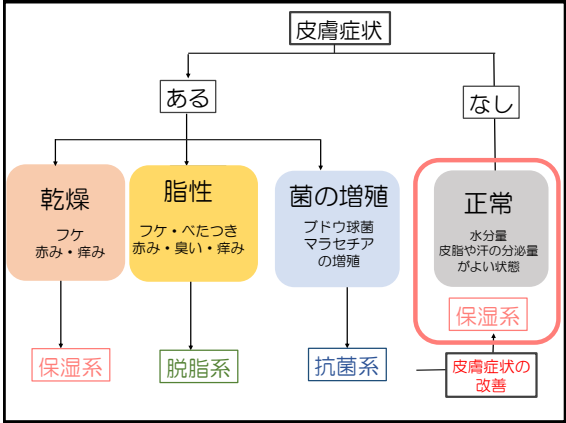
週に2回の洗浄
洗浄後は必ず保湿

マラセチア皮膚炎 皮膚表面のマラセチアの
増殖によって
引き起こされる皮膚炎

脂漏感
痒み
紅斑

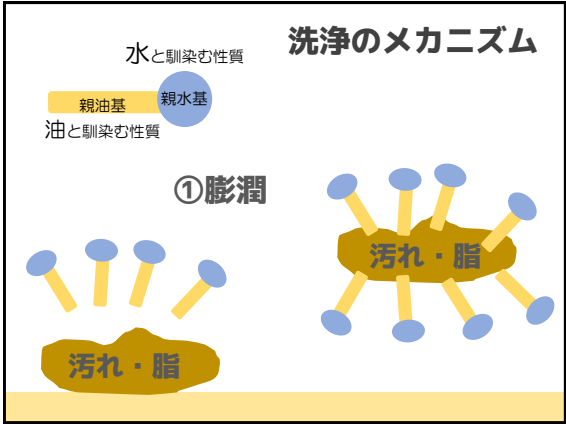
マラセチア皮膚炎では
皮脂量の増加に伴い
マラセチアが増殖

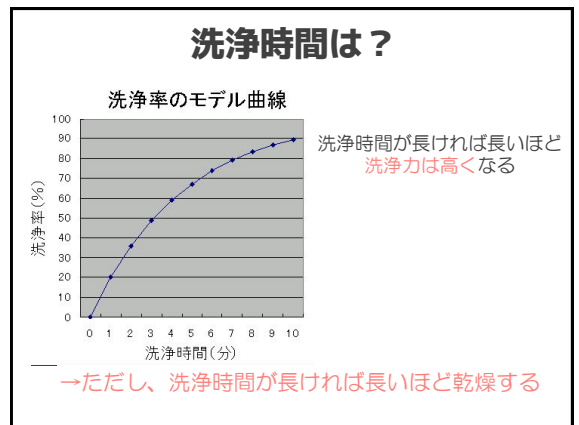
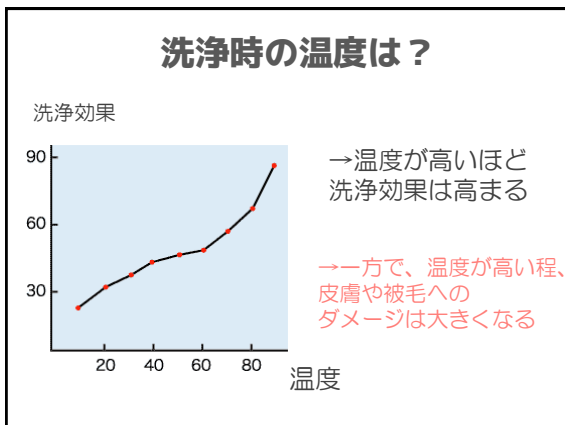
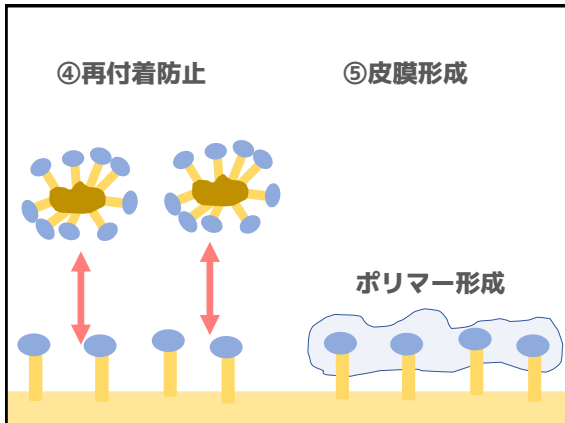
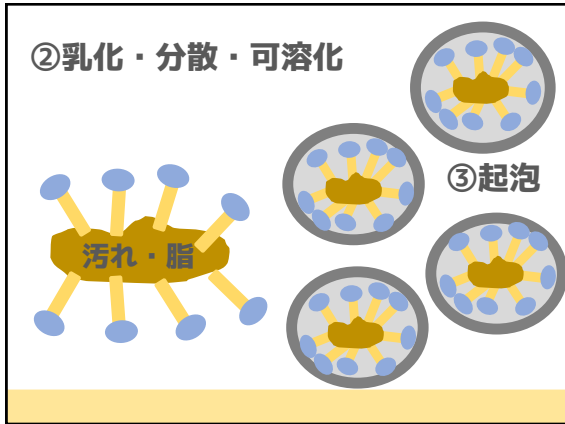
Point 皮脂の管理を行うこと
皮膚バリア機能の低下に配慮
することも重要



②皮膚バリア機能に
配慮した洗い方

誤った洗い方は
皮膚トラブルの原因になる
→シャンプー剤の特性に配慮した洗い方





Point

シャンプー後は必ず
保湿もしくはトリートメント



乾かしがうまくできません。
しっかりと乾かした方が良いですか？



乾かしがうまくいかない理由

- ①洗えていない
- ②部屋の温度・湿度が適切でない
- ③犬が嫌がる

Point

洗えているか確認！



被毛が濡れたままの状態はキューティクルにダメージを与える



乾かしの工夫！

Point 乾かしの工夫！



How to
Moisturizer



最も重要なことは

皮膚のバリア機能を意識したスキンケア

- 1、皮膚の状態に配慮したシャンプー剤の選択
- 2、皮膚バリアを意識した洗浄や保湿ができているか



保湿の定義

皮膚に水分を与え、皮膚の健康を維持

保湿剤は『ただ使う』だけでは
効果は乏しい



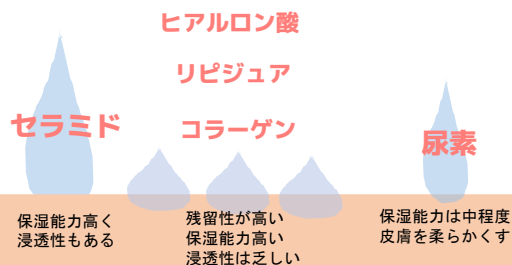
保湿剤の組成

成分 基剤



基剤の性質によって、
同じ成分でも
浸透性・使用感・仕上がりが異なる

成分



保湿として優れているのはセラミド

Effects of a topically applied preparation of epidermal lipids on the stratum corneum barrier of atopic dogs

A Piekutowska ¹, D Pin, C A Rème, H Gatto, M Haftek



アトピー性皮膚炎の犬において
繰り返しダームワンを塗布

→減少しているラメラ脂質を増加させ、
皮膚のバリア機能の改善に寄与する可能性

Piekutowska et, al. J Comp Pathol, 2008

基剤



ローション・スプレータイプ
広範囲に使用できる
毛量が多い場合などに向いている



泡タイプ
被毛に馴染みやすく浸透性が高い



スポットオンタイプ
残留性が高く保湿力が高い
頻回に塗布できない、
重点的に保湿したい

例えば、、、

どんなシーンで活用する？



VS



成分：セラミド
基剤：スポットオンタイプ

成分：尿素
基剤：ローションスプレー



Point 浸透性UPのコツ
異なる基剤を2種類使用



どれくらい保湿したら良いの？



ヒトでは、、、

回数が多い方が良い？塗布量が多い方が良い？

1日1回
2mg/cm²塗布

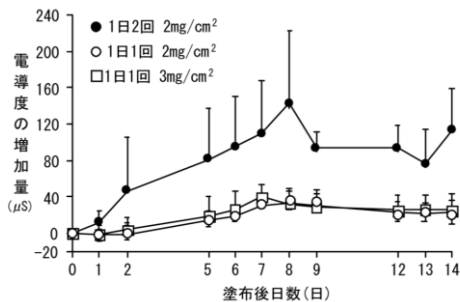
1日1回
3mg/cm²塗布

1日2回
2mg/cm²塗布



大谷ら 保湿剤の効果に及ぼす塗布量および塗布回数の検討 2012

塗布量 VS 塗布回数



大谷ら 保湿剤の効果に及ぼす塗布量および塗布回数の検討 2012

どれくらい保湿したら良いの？

1日1回
2mg/cm²塗布

1日1回
3mg/cm²塗布

1日2回
2mg/cm²塗布



『塗布回数が多い』が良い！

大谷ら 保湿剤の効果に及ぼす塗布量および塗布回数の検討 2012

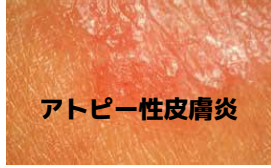
保湿剤の効果の持続時間（ヒト）

1日2回、5日間連続して保湿剤を塗布
→角層水分量が状態がどのくらい持続するのか



健常な皮膚

7日程度
保湿されている



アトピー性皮膚炎

3日で乾燥

アトピー性皮膚炎の場合は
持続的に塗布する必要がある

犬では、、、

①犬アトピー性皮膚炎 8頭

週2回 12週間

→6週間後 紅斑の顕著な改善

Fujimura et, al. Vet Med Int, 2011



②犬アトピー性皮膚炎 32頭

(二重盲ランダム化比較試験)

週3回 4週間

→臨床症状(CADESIスコア)の改善

Marsella et, al. Vet Dermatol, 2012



ご家族にとって、 スキンケアをすることは負担！？

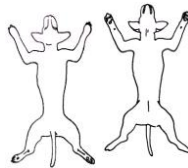


- 全身でなくてもOK
乾燥する部位のみだけでも
- 触れあう練習として考えていただく
- 無理な場合は院内での実施
- スキンケアの効果測定・評価の実施

ご家族への確認

- ✓ □ 現在使っている製剤は ()
- ✓ □ 保湿剤は1日に何回くらい行えましたか？
・ 1回 ・ 2~3回 ・ 行えなかった
- ✓ □ 保湿剤は正しく使えましたか (はい・いいえ・わからない)
- ✓ □ 皮膚の状態は良くなりましたか (はい・いいえ・わからない)
- ✓ □ 不安なことはありますか？
(はい・いいえ :)

私たちができるスキンケアの記録



コンプライアンス

0 3 5 8 10

皮膚の状態の評価

0 3 5 8 10

Follow up!



予防的スキンケアの紹介

皮膚症状を緩和させるのを「治療的スキンケア」
皮膚に問題が起きる前から皮膚の健康を保つことで皮膚
トラブルを予防することを人の看護では
「**予防的スキンケア**」という

米国と英国においてアトピー性皮膚炎
のリスクが高い新生児124名
無作為化比較試験



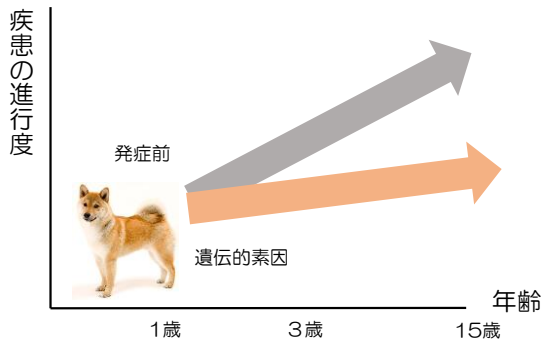
生後3週間以内から
1日1回以上、
全身の保湿した群

何もしていない群

保湿した群ではアトピー性皮膚炎の皮膚症状
の発症率が**50%**低下

Simpson, et al. J Allergy Clin Immunol, 2014

発症予防のためのスキンケア



日本人のシャンプーの歴史



昭和7年
月に2回のシャンプー

昭和40年
週に1回のシャンプー

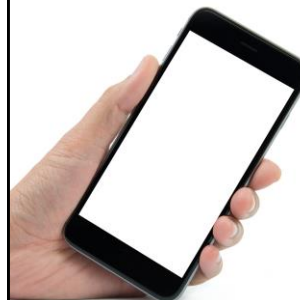
企業や医療従事者の啓蒙がスキンケアの文化を変えた

スキンケア教室の実施



パピー教室のプログラムに
入れるのも良い

SNS



スキンケアの説明の上達のコツ

- ・実際に製剤に触れること
- ・繰り返し説明
- ・ご家族の事情に寄り添う

